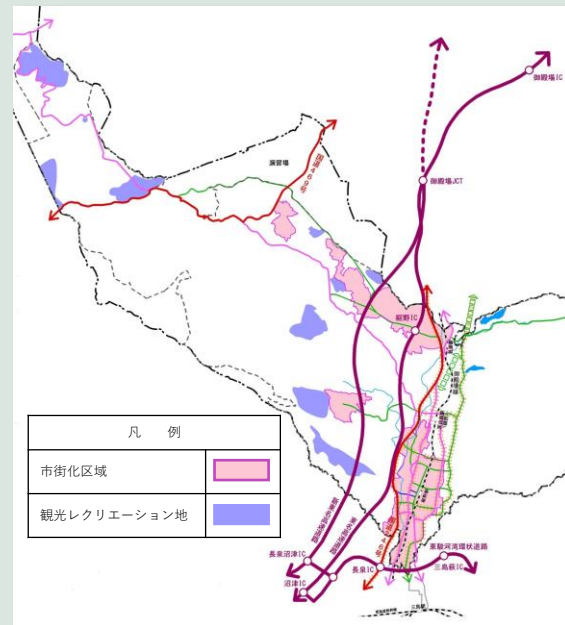


## 1. 整備の背景

「美しい富士山」の見えるまち裾野市には南北を結ぶ新東名高速道路、東名高速道路、一般国道246号裾野バイパス、東西をつなぐ一般国道469号などの主要幹線道路が通っており、交通量は多いものの、道路沿線に休憩施設や情報施設、商業・観光施設が少なく、多くの道路利用者が裾野市を通過する傾向にあります。さらに裾野市周辺の道の駅間は距離があるため、道路利用者への休憩・情報の発信など、安心な道路交通環境を提供と、北と南に分かれた市街地の地域間住民の交流の場やにぎわいを創出していくために、「道の駅」を整備することは有益であると考えます。



## 2. 基本コンセプト

道の駅は道路利用者のための「休憩機能」、道路利用者や地域の方々のための「情報発信機能」、道の駅をきっかけとしたにぎわいや地域コミュニティの活性化、観光や産業への貢献を行うための「地域連携機能」という3つの機能を持ちます。裾野市はここに「防災機能」を付加し、市民・来訪者の災害時の防災拠点とします。さらに、四季折々の美しい富士山を望む立地を生かした裾野市ならではの道の駅の整備を目指します。

### ○目的

- 道路利用者への安全で快適な道路交通環境の提供
- 地域の振興に関与
- 災害時の防災施設としての役割**

### ○基本コンセプト

- 休憩機能
- 情報発信機能
- 地域連携機能
- 防災機能

24時間無料で利用できる駐車場・トイレ  
道路情報、地域の観光資源、緊急医療情報などを提供  
文化教養施設、観光レクリエーション施設など  
**災害時に利用可能な防災施設、災害時の周辺施設との連携施設など**

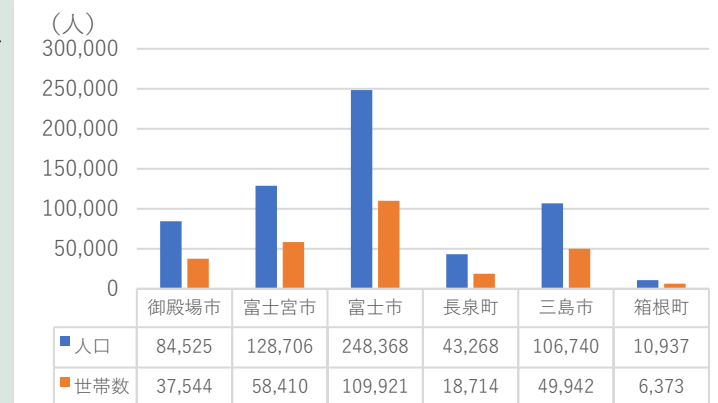


**“安心な道路交通環境の提供と、  
地域のにぎわい創出や交流の場の提供”**

## 3. 目指す姿

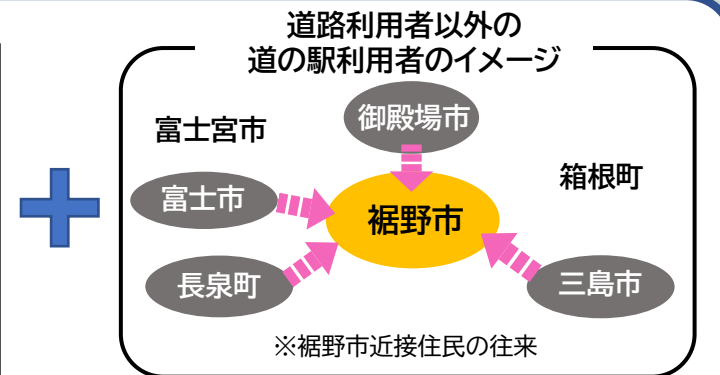
「休憩機能」「情報発信機能」で期待できる道路利用者と、「地域連携機能」による裾野市民や周辺市町から期待できる利用者について、下図の通りイメージを作成しました。道路利用者はもとより、周辺市町からの道の駅利用者も取り込み、関係人口の増大を図ります。

参考：周辺市町の人口及び世帯数（令和5年4月1日現在）



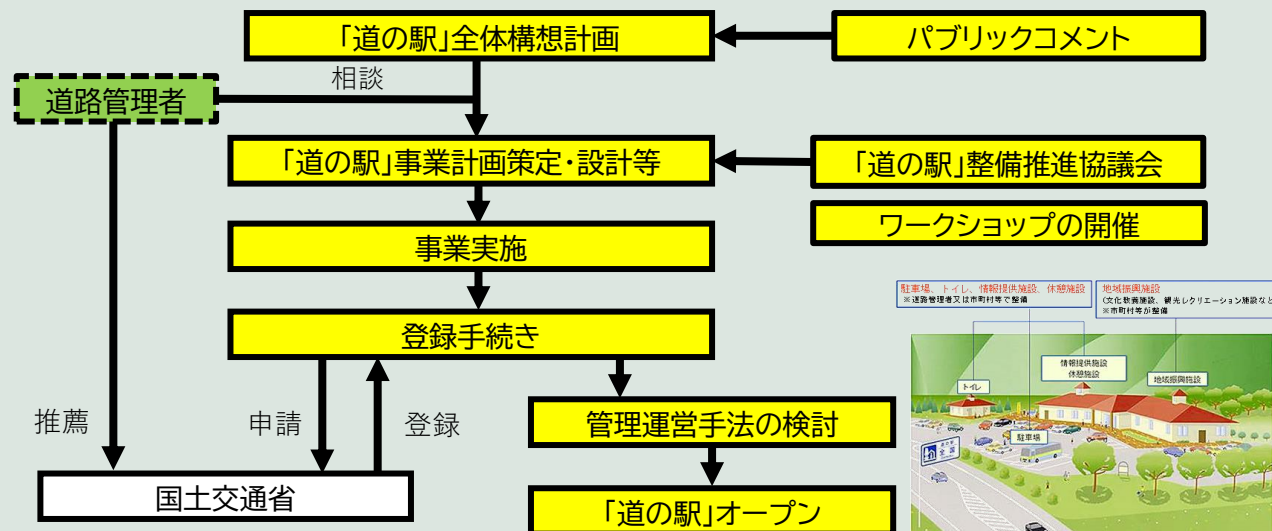
### 道の駅全体の利用者イメージ

「休憩機能」「情報発信機能」で期待できる道路利用者



## 4. 今後の整備フロー

整備フロー概要は下図の通りです。



※道路管理者の簡易パーキングの計画がある場合、道路管理者が整備する簡易パーキングと一体的に整備する場合がある。（一体型）

出典：国土交通省HP